

いちき串木野

新春号

平成 25 年 1 月 7 日 発行

市議会だより

第38号

謹んで新年の
ご挨拶を申し上げます



市民のみなさまの
ご健康とご多幸を
お祈り申し上げます

いちき串木野市議会

議長

下迫田 良信

副議長

東 育代

議員

平石 耕二

西中間 義徳

宇都 隆雄

中村 敏彦

南竹 篤己

中里 純人

枇榔 秋信

濱田 尚

西別府 治

楮山 四夫

竹之内 勉

寺師 和男

原口 政敏

宇都 耕平

福田 清宏

東 勝巳

新年のあいさつ

いちき串木野市議会議長 下迫田 良信

明けましておめでとうございます。

希望に満ちた平成 25 年の新春を、ご家族お揃いでお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

旧年中、市民の皆様方には市政各方面にわたるご理解とご協力を賜り、併せて私ども市議会に対しましても格段のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年のわが国は、山中京都大学教授の人工多能性幹細胞（iPS細胞）開発によるノーベル医学生理学賞の受賞やロンドンオリンピックでは日本が過去最多となる38個のメダルを獲得するなど明るい話題がある一方で、いじめの問題が社会全体で取り組まなければならない大きな課題として浮き彫りになった年でありました。

国内の経済情勢は、海外経済の減速から景気の弱含みが報告され、今後緩やかな回復経路に復していくとの見通しもありますが、今なお、先行きは不透明であります。県内においても、富士通やパナソニック関連企業が撤退の方針を打ち出すなど地域経済への大きな影響が懸念されております。昨年末に行われた総選挙においては、デフレ対策が争点の一つとなりましたが、新政権下での一日も早い経済再生を望むものです。

また、少子高齢化、人口の減少が進み、全国の15歳未満の子どもの推計人口は31年連続でマイナスとなり、65歳以上の高齢者も3000万人を超えております。本市の高齢化率も昨年9月には30%を超え、本格的な少子高齢化社会を見据えた取組が求められているところであります。

このような中、地方分権、地域主権改革も本格的な実施の段階に入ってきており、国からの権限移譲などが進むことで益々増大する地方自治体の役割に対し、地方自治の一翼を担う私ども議会は、地方自治体の団体意思の決定機関として、また執行機関を監視する機関として、その機能を十分に発揮していかなければなりません。

本市議会におきましては、昨年来、議会の活動理念などを盛り込んだ議会基本条例を本年制定するための取組を進めるとともに、先の9月議会においては、本市の議員定数はいかにあるべきかを調査するために議員定数調査特別委員会を設置し、様々な角度から議論を行ってきております。

また、市民の皆様の声の声を市政に反映させるために行っていた議会報告会については、市民との意見交換に力を入れるという観点から「市民と語る会」に名称を変更し、市内16会場で開催したところであります。

本年は、議会中継導入の取組など更なる議会改革を進めていく所存であります。

議員力の差が自治体間格差につながる時代が到来しているともいわれております。市民の代表として議員個々の取組はもちろんのことですが、議会として更なる活性化に努め、市民の声を市政に反映させるべく知恵を絞り取り組んでまいります。

市民の皆様にとりまして、本年がより実りある飛躍の年となりますよう心から祈念申し上げますとともに、今後も一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のあいさつといたします。

議員は公職選挙法により、選挙区内における年賀状等のあいさつ状は禁止されています。

(ただし、答礼のための自筆によるものは除きます)

市民の皆様のご理解をお願いいたします。